

JRTU
No.273
2018
4月23日

あくせす

Access

JR九州労組大分
しんぶん

九州旅客鉄道労働組合
大分地方本部
大分市大道町1丁目8番1号
097-543-2223

発行責任者 佐藤守洋
編集責任者 難波 悟

第24回 地本定期委員会開催！

平成30年3月10日、大分市『ソレイユ』においてJR九州労組大分地方本部「第24回定期委員会」を開催し地本役員、大会代議員計20名が参加した。議長には山野代議員（北部駅連合）を選出した。地本執行部を代表して佐藤委員長が挨拶、来賓として中央本部より芦原書記長が代表して挨拶に立った。委員会は執行部から活動経過報告の後、当面する活動方針（案）、暫定予算（案）を提起した。質疑応答では6名の代議員より積極的な発言を受けて、活動方針を補強し川崎書記長の集約答弁を行った後、全議案が満場一致で採択され、最後は佐藤委員長の団結ガンバローで閉会した。



佐藤委員長

委員長挨拶（要旨）

はじめに、熊本地震から1年10ヶ月、九州北部豪雨から8ヶ月が経過しました。自然災害の猛威、破壊力の恐怖を身に染みて感じた出来事となりました。現在、被害を受けた、各地区では復旧・復興に向けて、懸命に作業が進んでいます。JR九州においても4線が被害を受けており、日々業務に携わる組合員の皆さまに敬意を申し上げます。

さて、この地本委員会は春闘闘争を柱に開催するわけですが、春闘の闘いは賃金改善だけ求めていく

ではなく、同時に労働条件等の確立に向けて取り組むこととなります。委員会終了後、春闘勝利総決起集会を開催させていただきます。

一つめに安全問題の取り組みですが「すべてのJR関係労働者の死亡事故・重大労災ゼロ」を最重要テーマに掲げ「安全最優先」の職場風土・企業風土の構築に努めてきました。しかし、揚げたテーマとは裏腹に取扱い誤りは増加傾向にあります。二つめに組織問題ですが、各分会においても分会大会が終了し新体制が確立され世代交代が進んでいます。三つめに2018年春闘の取り組みとして「底上げ」「月例賃金」「持続性」「広がり」の4つのキーワードから、この間の闘争の展開を振り返り「賃上げの流れを社会運動にしなければならぬ。春闘闘争は「賃上げ」と同時に「働き方」を見直す闘いとしています。四つめに政治課題についてありますが、今年度実施される中間地方選挙に対してJR九州労組が推薦する候補者の当選、さらには来年は統一地方選挙の年となることから、全組合員一丸となり取り組んでいきたいと考えています。

地本の役員も見てのとおり若手が就任しています。試練の連続ではありますが、叱咤激励を受け成長させていくことをお願い申し上げます。以上4点について私の考えを述べさせていただきます。後ほど提起します活動方針（案）と合わせ真摯な討議をしていただき満場一致でご承認いただくことをお願い申し上げます。

今回のダイヤ改正から、混成組が2組制となり、他区所では、安全面に考慮して混成組を廃止してきているなかで大分は逆行しているのではないかと。再雇用時には、一車種に限定した交番を指定し再雇用者の働きやすい労働環境を確立すべきである。

大分運輸センター 安部委員

集約後に問題の事実が判明し、分会任せになってしまったと反省している。地本で対応を検討していきたい。



遠藤業務部長

ダイヤ改正の集約にあたっては迅速に交渉経過を作成して頂き、会社から受けた説明やお知らせ等は口頭だけでなく業務報を活用し系統問わず広く正確に周知して頂きたい。ホームページを活用した情報の共有として本部・本社間、各地本・支社間の交渉経過を閲覧できるように検討して頂きたい。

ゆふ森の異臭（長大トンネルで匂いが車内へ）お客さまにご迷惑をかけており、新製を検討すべきでは。運転士の負担軽減のためワンマンドアスイッチと安全面から停車時分1分の獲得を求めます。



大分運輸センター分会
上野委員

本部と調整し、可能であれば実施していきたい。ゆふ森の対応は会社と交渉していきたい。引き続きワンマンドアスイッチ設置要求をしていきたい。

36協定締結に至る経過の報告と締結期間6ヶ月間とした理由について答弁を求めます。

分会では組合活動に理解と協力を求めるため教宣活動に力を入れて取り組んでいるところですが、将来を見据え、次世代の役員育成は急務であるが地本においてオルグやセミナー等、各分会に入り教宣活動の強化が必要ではないか。今後の課題として考えをお尋ねする。



川崎書記長



大分運輸センター分会
坂戸委員

労使とも超勤実績を確認したい考えのもと締結した。5月に平成採用を対象としたセミナーを開催し次世代の役員を育成したいと考える。

JRTU
No.273-2
2018
4月23日

あくせす

Access

JR九州労組大分
しんぶん

九州旅客鉄道労働組合
大分地方本部
大分市大道町1丁目8番1号
097-543-2223

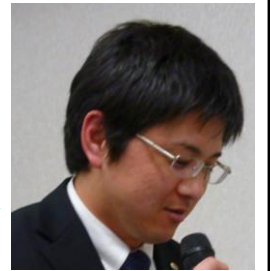
発行責任者 佐藤守洋
編集責任者 難波 悟

スマートサポートステーションについてはダイヤ改正にて実施するため準備を進めてきたと思いますが、3駅で実施されるものの、他駅では整備が出来ないので、実施することになりましたがダイヤ改正までに整備すべきであったと考えます。

無人化に伴いお客さまが増え窓口の混雑が見込まれますので対策を考えていただきたい。

JR九州旅行は駅に統一されますが、計画的に実施すれば駅旅行センターの廃止はなかったと考える。

業務の見直し、旅行券の発売終了などお客さまへの告知期間が充分でないと思われまます。



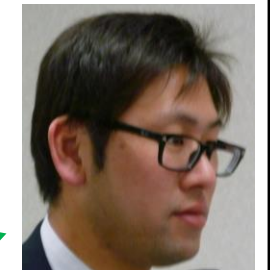
中央駅連合分会
洲上委員

意見の一本化に時間はかかるが早急に対応していきたい。

ソフト面の安全対策に取り組んでいますが、特急車両については、中間位置に防護無線が設置されておらず、運転士が列車防護を行えない場合は運転台へ移動しなければならず、ダイヤ改正から佐伯～延岡間787系各停扱いが実施され中間位置での乗務もあるため防護無線の設置をお願いします。

乗務員室の暖房は早朝時には全く効かず寒さに耐え業務をしていますので暖房装置の新設や改良をお願いします。

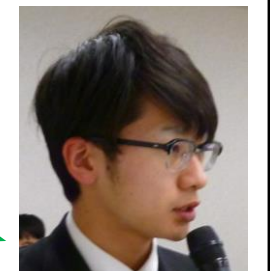
旅行事業の見直しによりキャンペーンは廃止されると伺っていますが、お中元、お歳暮は来年秋より消費税10%が計画されており、目標額が増加され負担感が強くなりますので廃止を含め改善を求めます。



大分車掌センター分会
小宮委員

状況把握し会社に要望していき、負担軽減になるよう要求していきたい。

青年・女性委員会は、若返りが進んでいるなかで全体の4割を超え、5年後には牽引する世代である。労働組合について運動を継承していかなければ将来、組織として苦しくなるのは目に見えているため今後は横の繋がりを活かし組織強化に努めていくのが、青年・女性委員会に求められるため地本執行部や各分会の皆さまには青年・女性委員会の活動へご協力をお願いしたい。



青年女性委員会
牧特別委員

各分会では若い組合員に対して声をかけていただき次世代の役員育成をしていただきたい。



遠藤業務部長



久松副委員長

書記長集約答弁(要旨)

私たち鉄道産業で働く者にとって「安全の確立」は最大の使命という労使共通認識にたち、安全の確立を最優先課題と位置づけ取り組みを展開しています。しかしながら、昨年の大会以降も死亡労災が発生するなど墜落、交通事故といった重大労災が発生しています。今一度、すべての基盤である安全の確立にむけ、労働組合としてのチェック機能を発揮することともに、職場における安全追及の場である「安全衛生委員会」の一層の充実・強化をはかる取り組みを展開し、最重要テーマに掲げる「すべてのJR関係労働者の死亡事故・重大労災ゼロ」の完遂に向け、共に行動を展開しましょう。

次に組織関係についてです。私たちはこれまで「一企業一労働組合」を目標に取り組みを展開してきました。大分地本においては組織率は社員95.1%、パートナー社員100%と推移していますが昨年の8月の大会以降、7名の脱退者を出す結果となったことは真摯に受け止めなければなりません。改めて組合運動の必要性を訴えながら地本・分会一体となった組織強化に取り組みとともに、各分会においては、分会執行委員会の定例開催や組合掲示板を有効活動するなど分会組織を機能強化することが重要です。地本としても組織部長を中心に指導を強化していくこととします。また、JR九州労組における青年女性委員会の果たすべき役割は着実に大きくなっています。地本としても、学習会や親子対話の開催を通じてJR九州労組の運動を担う活動家の育成を目指し運動を展開します。

次に政策課題実現に向けた取り組みについてです。中期労働政策ビジョン「チャレンジ2018」や昨年の定期大会で示された「職場の働き方改善」の提言、JR連合が提唱する「チーム地域共創」をつくる9提言の理解を促進する取り組みを強化します。具体的には政策部長を中心に各級機関合同で学習会を開催しますので各分会の対応をよろしくお願ひします。

次に業務関係についてですが平成30年3月ダイヤ改正及び平成29年下期効率化等については、昨年12月詳細提案以降関係分会からの問題点の集約を行い交渉を展開してきました。今施策はJR発足以降最大の減便やSSS導入に伴う無人駅拡大などが提案され、各自治体から施策見直しに対する要望やご意見をいただくこととなり一部見直しを行うこととなりました。地本としても会社の効率化施策については「雇用の確保」「安全の確保」「サービスマン労働条件の維持向上」を基本に是々非々で対応することとします。また実施後二ヶ月を目途に問題点の集約を行い、見直し要求等を行い次期施策への反映や改善に向けて取り組みを展開します。関係分会においては、明らかにした課題や意見の集約を要請します。2018春闘の取り組みについて組合員、家族総がかりでの署名活動など最大限のご協力を頂いたことにこの場を借りて感謝申し上げます。本日出されたご意見を真摯に受け止め、全力で取り組んでいくことをお約束し、提案した全ての議題に対して満場一致で採択いただきますようお願い申し上げます。